

## 令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和7年4月17日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 244人

② 数学 244人

③ 理科 243人

#### 5 留意事項

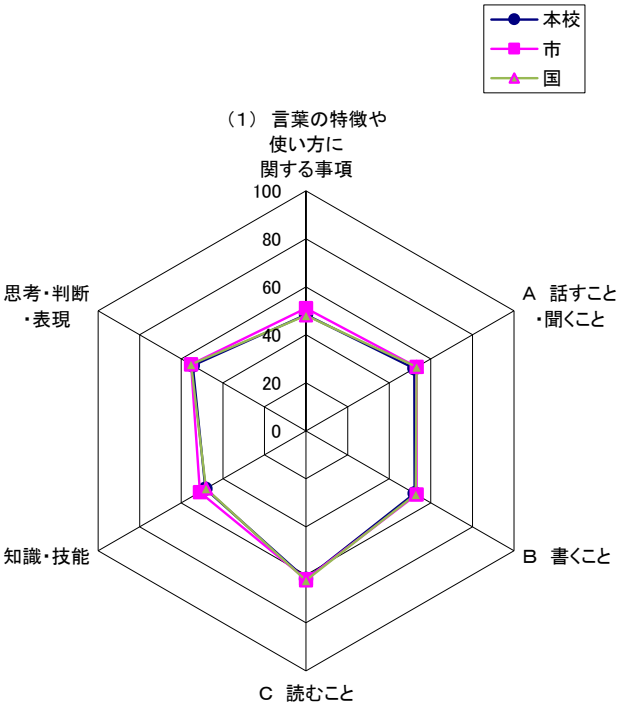
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                  | 本年度  |      |      |
|-----|---------------------|------|------|------|
|     |                     | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 48.4 | 51.1 | 48.1 |
|     | (2) 情報の扱い方に関する事項    |      |      |      |
|     | (3) 我が国の言語文化に関する事項  |      |      |      |
|     | A 話すこと・聞くこと         | 52.0 | 53.2 | 53.2 |
|     | B 書くこと              | 52.2 | 53.1 | 52.8 |
|     | C 読むこと              | 61.7 | 61.8 | 62.3 |
| 観点  | 知識・技能               | 48.4 | 51.1 | 48.1 |
|     | 思考・判断・表現            | 54.5 | 55.3 | 55.3 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度       |      |      |      |



★指導の工夫と改善

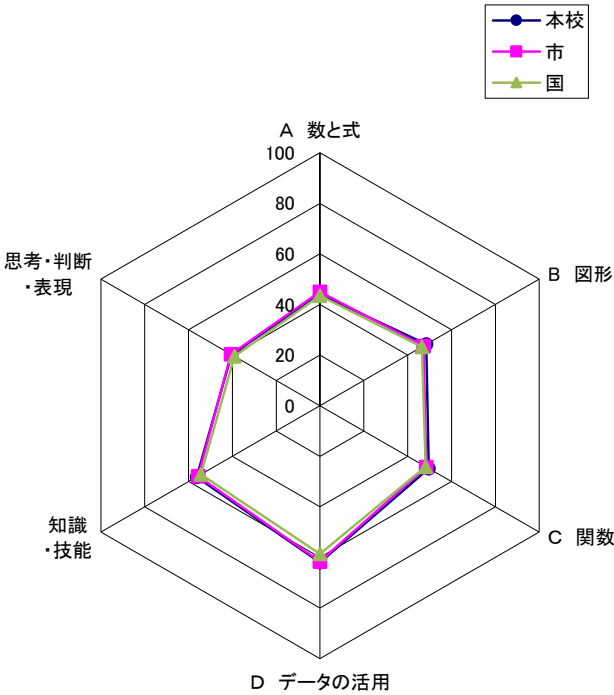
| 分類・区分               | 本年度の状況                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 言語の特徴や使い方に関する事項 | ○語彙の意味を問われる問題では、全国・県の平均を上回った。<br>●この領域では、市の平均に対し本校の平均が2.7ポイント下回った。                                                | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・語彙の意味を正しく理解している生徒が多い反面、選択肢から選べきい生徒が多い。言葉についての学習は日々の学習の中で、継続的に行っていく。授業において、既習の内容を復習しつつ、繰り返し学習させる。           |
| (2) 情報の扱い方に関する事項    |                                                                                                                   |                                                                                                                                         |
| (3) 我が国の言語文化に関する事項  |                                                                                                                   |                                                                                                                                         |
| A 話すこと・聞くこと         | ○自分の考えが伝わるように表現する問題では、全国や県の平均を上回った。<br>●論理の展開をより分かりやすく工夫する問題では、全国・県の平均を下回った。<br>●この領域では、全国・市に対し本校の平均が1.2ポイント下回った。 | ・本校は無解答率が低く、生徒の関心が高いことがうかがえる。自分の考えを伝える能力は高いので、より相手意識や資料の活用などを考えさせることで、論理的に考える力を付けさせたい。                                                  |
| B 書くこと              | ○目的に応じて伝えたいことを明確にする問題では、全国・県の平均を上回った。<br>●読み手の立場に立って文章を整える問題では、県の平均からは2.9ポイント、全国の平均からは3.6ポイント下回った。                | ・授業で「書く」という取組をこまめに入れるようにしている。作文指導も定期的に行い、生徒の苦手意識を取り去るようにしている。少しずつ、書ける量が増えている生徒が多い反面、まだ書き出しに時間がかかる生徒がいる。長文の問題ではなく、短文を書かせる活動を多く取り入れていきたい。 |
| C 読むこと              | ○登場人物の性格を捉える問題では、全国・県の平均を2.0ポイント近く上回った。<br>●根拠を明確に捉える問題では、県の平均よりも1.1ポイント、全国の平均よりも2.1ポイント下回っている。                   | ・根拠を明確にするような深い読み取りを苦手とする生徒が多いので、授業でも本文読解をする際に毎回、根拠となる部分に線を引かせたり、印をつけたりさせている。授業内でも誤った読解をする生徒が多いため、引き続き根拠を読み取らせる活動を取り入れる。                 |

宇都宮市立清原中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分            | 本年度  |      |      |
|----|---------------|------|------|------|
|    |               | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | A 数と式         | 44.0 | 45.0 | 43.5 |
|    | B 図形          | 48.5 | 47.2 | 46.5 |
|    | C 関数          | 49.6 | 48.5 | 48.2 |
|    | D データの活用      | 62.0 | 61.6 | 58.6 |
| 観点 | 知識・技能         | 56.3 | 55.6 | 54.4 |
|    | 思考・判断・表現      | 40.4 | 40.7 | 39.1 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度 |      |      |      |



★指導の工夫と改善

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                   | 今後の指導の重点                                                                                                                   |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A 数と式    | ●『数と式』の領域の本校の正答率は、全国平均は0.5ポイント上回っているが、市平均を1.0ポイント下回っている。<br>○連続する二つの3の倍数の和が9の倍数になるとは限らないことの証明の問題の正答率が県平均を5.2ポイント上回っている。<br>●1から9までの数の中から素数を選ぶ問題の正答率が県平均を5.0ポイント下回っている。                                   | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・文字を用いた説明は比較的良好にできている。その一方で、素数を選ぶ問題は正答率が低かったため、授業等で用語や定義を振り返り、繰り返し復習問題に取り組めるような機会を設け、定着を図っていく。 |
| B 図形     | 『図形』の領域の本校の正答率は、全国平均を2.0ポイント、市平均を1.3ポイント上回っている。<br>○平行四辺形になるための条件を使う証明の問題の正答率が県平均を3.6ポイント上回っている。<br>○四角形が平行四辺形であることの証明を振り返り、新たにわかることを選ぶ問題の正答率が県平均を0.1ポイント上回っている。                                         | ・2学年時、三角形の合同の証明についての導入において、授業で証明の流れを分かりやすく捉えやすいように工夫を行った。3学年では、三角形の相似の証明を学ぶので、さらに知識、技能の定着を図れるように、繰り返し練習できる機会を設けていく。        |
| C 関数     | 『関数』の領域の本校の正答率は、全国平均を1.4ポイント、市平均を1.1ポイント上回っている。<br>○A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおおよそ何円になるかを求める方法を説明する問題では、県平均を1.4ポイント上回っている。<br>○A駅からの走行距離と運賃の関係をあらわすグラフの何を読み取ればC駅とD駅間の走行距離が分かるかを選ぶ問題では、県平均を0.2ポイント上回っている。 | ・3学年にて、関数 $y=ax^2$ を学ぶ際、既習事項である比例や反比例、1次関数にも触れ、表・式・グラフの関係を復習し、知識の定着を図る。また、言葉で説明する問題を苦手とする生徒は多いので、説明する機会を増やし、実力の向上を図っていく。   |
| D データの活用 | 『データの活用』の領域の本校の正答率は、国平均を3.4ポイント、市平均を0.4ポイント上回っている。<br>○度数分布表から相対度数を求める問題では、県平均を5.3ポイント上回っている。<br>●AとBの勝ちやすさについての正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する問題では、県平均を4.3ポイント下回っている。                                          | ・基本的な知識や技能は身に付いている様子が見える。一方で言葉や数式、数値を用いて説明する問題では正答率が下がる傾向があるので、説明する機会を増やし、実力の向上を図っていく。                                     |

宇都宮市立清原中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

| 分類 | 区分             | 本年度  |      |      |
|----|----------------|------|------|------|
|    |                | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 「エネルギー」を柱とする領域 | 56.2 | 54.5 | 56.1 |
|    | 「粒子」を柱とする領域    | 62.3 | 62.2 | 61.7 |
|    | 「生命」を柱とする領域    | 46.2 | 46.5 | 44.8 |
|    | 「地球」を柱とする領域    | 38.7 | 36.7 | 37.3 |
| 観点 | 知識・技能          | 67.7 | 67.0 | 66.8 |
|    | 思考・判断・表現       | 39.5 | 38.3 | 38.8 |
|    | 主体的に学習に取り組む態度  |      |      |      |

※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

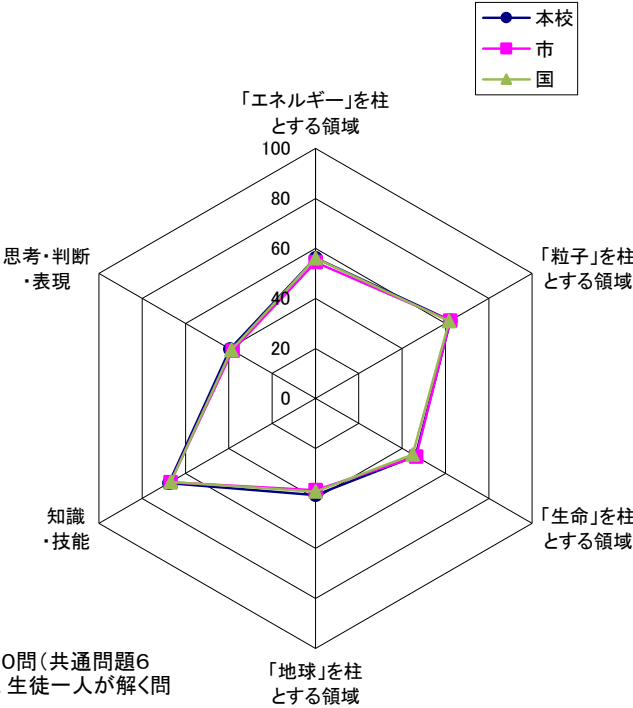
※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問(共通問題6問、実施日より指定された問題4問)と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問(共通問題6問、実施日より異なる問題16問)の調査結果を集計した値である

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分          | 本年度の状況                                                                                                                                                              | 今後の指導の重点                                                                                                                                    |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 「エネルギー」を柱とする領域 | ○電熱線を使用し、直列・並列回路、抵抗の大きさの違いで水の温まる速さの問題の正答率は県の平均よりも0.8ポイントが高かった。<br>●音に関する知識や技能を活用して、予想される実験結果についての記述式の問題の正答率が低かった。                                                   | ・考察をより確かなものにするために、どのような実験が必要なのか、生徒に考えさせながら実験を進め、その内容を記述させ思考力を身に付けさせたい。                                                                      |
| 「粒子」を柱とする領域    | ○一酸化炭素は空気より軽いという性質を火災における避難行動と関連させる問題やプロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったとき、空気の密度と比較する問題の正答率が高かった。<br>●実験時に、水道水ではなく、精製水を使うことに対する疑問を解決する記述問題の正答率は全国の平均より7.9ポイント、県の平均より4.3ポイント低かった。 | ・身近な気体の性質を理解し、ガスの警報機をどこに設置させる必要があるかなど、身の回りに関連付けて考える力が身に付いているので、今後も引き続き指導していきたい。<br>・化学変化に関する知識や技能を活用して、実験結果を解釈して、原子や分子のモデル図で表現する力を身に付けさせたい。 |
| 「生命」を柱とする領域    | ○消化によってデンプンがブドウ糖に分解されることと同じ化学変化を問う内容の正答率は全国の平均より1.1ポイント高かった。<br>●柔毛や肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつ問題の正答率は全国の平均より1.9ポイント、県の平均より2.5ポイント低かった。                                    | ・生物の呼吸について理解はできているが、肺胞、柔毛、根毛に共通する構造として、共通性や多様性の見方、比較する内容について多面的、総合的に探究させて理解を深めさせたい。                                                         |
| 「地球」を柱とする領域    | ○気圧に関する身近な事象を問う問題の正答率は全国の平均より0.9ポイント、県の平均より7.3ポイントが高かった。<br>●土地の様子とボーリング調査の結果を時間的・空間的に関連付け、地層の広がりを検討して表現する内容の正答率が低かった。                                              | ・地層の広がりや柱状図などの正答率はいつも低い傾向にあるので、ICTを活用しイメージを膨らませる工夫を行い、生徒の思考力を高めていきたい。                                                                       |



宇都宮市立清原中学校 第3学年 生徒質問紙

|                                                                                                                                                                                                                                                                    |                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| ★傾向と今後の指導上の工夫                                                                                                                                                                                                                                                      | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの |
| ○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の肯定的回答の割合は86.5%、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の肯定的回答の割合は80.7%と、それぞれ肯定的回答の割合は全国平均を上回る結果となった。自分以外の周りの人々と良好な関係を築きながら生活していくためのスキルが身に付いてきているのではないかと考えられる。                                                                                               |                          |
| ○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的回答の割合は88.1%であった。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」の肯定的回答の割合は93.8%、「自分には、よいところがあると思いますか」の肯定的回答の割合は88.1%と、それぞれ肯定的回答の割合は県平均及び全国平均を上回る結果となった。今後も生徒が自己肯定感を高く維持できているよう、声掛けを行っていきたい。                                                           |                          |
| ○「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定的回答の割合は74.2%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の肯定的回答の割合は97.2%と、それぞれ肯定的回答の割合は全国平均を上回る結果となった。今後も自分の将来について考え、希望を持てるような進路指導をしていきたい。                                                                                                                           |                          |
| ○「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の肯定的回答の割合は82.0%と、肯定的回答の割合は県平均及び全国平均を上回る結果となった。意欲的かつ主体的に学ぼうとする姿勢が育ってきているとみることができる。                                                                                                                              |                          |
| ○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」の肯定的回答の割合は86.9%と、肯定的回答の割合は県平均及び全国平均を上回る結果となった。総合的な学習の時間で行う、課題追究学習と学校行事や地域関連行事等が上手く結び付いたことによる成果が表れたものだと考えられる。                                                                                          |                          |
| ○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の肯定的回答の割合は87.3%、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の肯定的回答の割合は77.4%と、それぞれ肯定的回答の割合は全国平均を上回る結果となった。自分も相手も認められ、安心できる学習環境が確保されていることで、意見交換が活発に行われている状態であると推測できる。今後も誰もが安心して学習できる環境づくりを進めていきたい。 |                          |
| ●「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか」の肯定的回答の割合は55.3%、「理科の授業で学習した考え方を普段の生活の中で活用できていますか」の肯定的回答の割合は52.1%と、肯定的回答の割合はともに県平均を下回る結果となった。今まで以上に、数学や理科のよさを実感させながら問題解決していくような課題を設定するなど、日常生活や社会と結び付ける工夫が必要である。                                                                   |                          |
| ●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」では、2時間以上と回答した生徒の割合が、全国平均を0.4ポイント下回っている。個に応じた学習支援を工夫しながら家庭と連携し、家庭学習の充実を図っていく必要がある。                                                                               |                          |

宇都宮市立清原中学校（第3学年）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                                    | 取組の具体的な内容                                                                         | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                      |
|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・目標にむかってあきらめずに、粘り強く学びに向かう生徒の育成<br>・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 | ・「自主学習ノート」の運用と適切な学習課題の提示による家庭学習の充実<br>・AID'リル、学校図書室の活用<br>・チームティーチングによる効果的な指導法の実践 | ・「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の肯定的回答の割合が、県平均より3.1ポイント、全国平均より4.5ポイント上回っている。<br>・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の肯定的回答の割合が、県平均より1.1ポイント下回り、全国平均より1.5ポイント上回っている。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                       | 重点的な取組                                          | 取組の具体的な内容                                                                                                 |
|----------------------------------------------------|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・思考・判断・表現の正答率において、国語は0.8ポイント、数学は0.3ポイント市平均を下回っている。 | ・思考力・判断力・表現力を育成するために、根拠を踏まえて自分の意見を書く力の充実に重点を置く。 | ・授業において、自分の考えをまとめ、記述する活動と、説明や話し合い活動に重きを置き、相互に関連付けたり、考えを整理したりできるようにさせる。<br>・振り返りの時間を確保し、書く内容や書き方の指導も行っていく。 |